

佐渡生きものの語り 作品集 2016



「佐渡生きものの語り」について

佐渡では、「トキが餌に困らないように」を合言葉に、田んぼに生きものが増える工夫をした米づくりに取り組んでいます。これが「朱鷺と暮らす郷」認証米です。

この取り組みの効果のほどは、毎年育っていくトキのヒナたちが証明してくれています。また、トキに負けじと農家も6月と8月に田んぼの生きものの調査をして、取り組みの成果を自分の眼で確かめています。

農家、市民、また来島者の皆さんからも、そんな佐渡の田んぼに棲む小さな生きものを見つめ、ふっと思ったことを川柳、写真、イラストなどで表現して、他の人たちにも伝えてもらいたい。こう願って佐渡生きものの語りを募集し、作品集を編纂しています。生きものを見つめて気づいたこと、認証米農家の苦労や喜び、さらには、佐渡の将来への希望や不安。様々な人たちの様々な思いを集めているこの作品集は、佐渡の今を伝える記録の一つとも言えるでしょう。

「佐渡生きもの語り作品集2016」どうぞご覧ください。



朱鷺と暮らす島 生物多様性佐渡戦略 キャッチコピー

佐渡でふれあういのちのつながり
人とトキが暮らす島を孫の世代へ

みなさんは「生物多様性」という言葉を知っていますか？生物多様性とは「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、様々な生きものが関わり合い、得られる恵みによって支えられています。

佐渡の豊かな自然や文化を保全・再生し、佐渡で育まれた多くの生きものと私たちが共生する環境を後世に渡って継承していくために、佐渡市では、平成24年6月に「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」が創られました。

佐渡の生物多様性を「知る・守る・使う」ことで、自分たちの子供や孫の代まで繋いでいく取り組みです。



穂苧田を

トキ待ちわびて

夕陽かな

梅村 静代

(愛知県)

【選者より】

稲刈りの終わった水田に数羽の朱鷺が舞い降りて、餌を探しついでに遊ぶ姿、待ちわびて降りたその姿が秋晴れの夕日に映え、風情あるコントラストを醸し出している・・・そんな情景を思い浮かべる作品です。



夢中なり バケツの中見る 仲間にも
白髪増えたり しわが増えたり

村田 和雄

(佐渡市)

トキよこい
オラが田んぼまでは 遠いのか

本間 武男

(佐渡市)



フォト部門 グランプリ作品

「環境に やさしい証や チョウトンボ」

小濱 加一郎（佐渡市）

このような珍しいトンボは初めて見ました。童心に戻り追い掛け回し、ようやく留まった所のワンショットです。これも環境にやさしい米づくりの成果でしょうか（笑）

【選者より】

早くから環境に配慮した地域農業の成果でしょう。トキとチョウトンボに出会える佐渡は凄い！多くの地域で確認出来る様になると良いですね！



濱辺 裕美（佐渡市・佐渡保育専門学校）

イラスト部門 グランプリ作品

【選者より】

トキとお米が生きもの豊かな里山のシンボルとして表現されています。トキが舞う中で農業が行われている佐渡ならではのメッセージが、絵の中に込められていると感じました。



神蔵 美穂子（佐渡市・佐渡保育専門学校）

準グランプリ作品

川柳・短歌部門 ノミネート作品

※ノミネート作品とは

選考委員により選出された作品です。その中から、JA佐渡
ふれあいアツセ祭り来場者の人気投票でグランプリが選ばれました。

泥まみれ 早苗育てた 田の友と

仲良くなれる 生物調べ

白杵 博道 (佐渡市)

サミットの終わりし 棚田の静けさ

ジイジイせみの なく声響く

村田 和雄 (佐渡市)

タモ片手 稲をかきわけ 汗をふく

本間 武男 (佐渡市)

風渡り ドミノたおしに なびく早苗

川上 澄子 (佐渡市)



クモ多く 糸はる姿 たのもしや

井川 千鶴子 (佐渡市)

新顔に 良く来てくれたと カメラ向け

大岡 栄一 (佐渡市)

【組俳句】

(春) 田水引き 蛙手を出し 足を出し

(夏) 生きもの田 種類数えて 草を取り

(秋) 朱鷺の群れ 島中飛ぶも 道半ば

(冬) 水張り田 冬鳥たちの コミセンかな

ペンネーム 腰際園 (佐渡市)



川柳・短歌部門 応募作品

イトミミズ 農薬使えば 数が減る

山田 尋己

羽根朽ちて 朱鷺渡り行く 能舞台

佐々木 勲

チヨウトンボ 初めて我が田に やって来た

小濱 加一郎

青い海原バツクに とき一羽

田中 政一

生きものの 命を大切に みまもってあげましょう

羽豆 忠雄

調査田 トキが見つけて 降りるかも

大倉 哲夫

熱い中 皆で田の虫 探したり

大倉 哲夫

ウミネコが 田んぼのピアノで 苗ふんじやった

高橋 正史

ぬかる田に 虫はどこかと 足とられ

本間 武男

あつトキかも しゃがむ畔 サギにだまされ

白サギ2羽

小林 三四吉

できはと にぎる稲穂 孫よびて はなす

たれる稲穂

小林 三四吉

おたまじゃくし わがすみかと たのしそう

計良 登

農薬を 減らせばみんな 喜ぶよ

吉良 裕紀夫



周りにいる生きものを調べてみるのじゃ！



ドクター イキモン

生物多様性 ポイント①

「佐渡市生きものの調査の日」

佐渡市では、佐渡の生物多様性豊かな環境を、市民一人ひとりが理解するために、平成22年6月に「佐渡市生きものの調査の日」を宣言し、毎年6月第2日曜日と8月第1日曜日に、全島で田んぼの生きものの調査を行っています。

農家だけでなく、子ども達や市民も参加し、佐渡の環境を支える「小さな命」に目を向ける取り組みです。

生きものも 暑さで弱り 昼寝する

吉良 裕紀夫

あかね空 吾がたんぼにも 朱鷺飛来す

浅木 達夫

田んぼにて きいろの羽根は カワラヒワ

荻野 晶子

稲穂出る ひと雨降って ひと安心

荻野 晶子

細長く アシカキのごとく 生きてゆかん

川上 澄子

青空に 映える トキの 雄々しさよ

川上 澄子

中干で 元気に生きるは 稲の株

川上 澄子

朝起きて トキを見ながら 良い事あるかも

榎田 富雄

トキの声 聞いて目覚める 昼寝かな

榎田 富雄

朝霧のあがりを待つて生きもの調べ

逸見 安正

緑ふえ 生物豊かな 減無農薬

逸見 安正

除草剤 使う分だけ 虫が減る

山田 尋己

胸張って 共に生きよう この地球

本間 仲夫

定例の 生きもの調査に トキの声

土屋 甚健

朝6時 目覚めてみれば トキの声

土屋 甚健

今年1番の暑さ トキはただ鳴くだけ

斉藤 孝夫



生物多様性 ポイント②

「GIAHS^{アジア} 世界農業遺産」

後世に残すべき生物多様性を
保全している農業上の土地の使
い方や景観について、FAO(国
連食糧農業機関)が認定するも
のです。

佐渡市は、生きものを育む農
法や、各農村集落に継承されて
いる伝統芸能などが評価され、
平成23年に石川県能登地域と共
に日本で初めて認定されまし
た。



重要じゃぞ！

初孫に豊かな実りをお願いこめてつくる我の田んぼ

小田 淑和

田んぼ一面の稲穂に笑顔があふれる今日の一日 小田 淑和

草取りに追われながらも命育む5割減 大澤 清二

生きものが 我が生活場 人が来る 恩田 昭夫

江の設置 トキが舞い降り エサ摘む 馬川 哲雄

虫さがし 犬と一緒に レッツゴー 詠み人知らず

足下を 急に逃げ出す 丘鰻 土屋 隆

自然との 付き合ひませば ホタルます 高柳 泰久

あ どじょう 見つけたとたんに トキが食う 高柳 泰久

佐渡力エル 耳をすまして 聞く声は 高柳 泰久

どこか遠くに 佐渡なまり 高柳 泰久

大空に トキ飛び交いて 郷栄え ペンネーム 田舎のあんちゃん

江の設置 生きもの育ち トキが舞う ペンネーム 田舎のあんちゃん

国中を舞い飛ぶ 朱鷺の親よ子よ 梅村 静代

佐渡へ行きたや ゆきたや佐渡へ 梅村 静代

「さあ、行こう！」 孫に引かれて 生きもの調査

ペンネーム きのすけ



生物多様性 ポイント③

「朱鷺と暮らす郷認証米」

佐渡では、農薬や化学肥料を少なくし、環境に配慮した米作りをしています。中でも、朱鷺と暮らす郷認証米は、田んぼとその周囲に生息する生きものの環境を作り出す「生きものを育む農法」により栽培されているお米です。



網を手には トキに負けるな 調査の日

ペンネーム

きのすけ

負けないぞ トキと張り合う 生きもの探し

ペンネーム

きのすけ

おれの田で エサ取るトキが 田あー(タァー)と鳴く

ペンネーム

きのすけ

ごほうびは 畦に落ちてた トキの羽

ペンネーム

きのすけ

応援の はずがいつしか 支えられ

ペンネーム

きのすけ

がんばれと トキが支える 佐渡農業

ペンネーム

きのすけ

川柳・短歌部門 学生 応募作品

佐渡中等教育学校

われらトキ 佐渡ヶ島にて ふっかつだ

石見 悠

晴天の 空に飛ぶトキ 美しい

ピンクい羽根が トキドキ見れる

佐嶋 勲理

虫が呼ぶ 水田に降りる 朱鷺の影

エサを求めて 佐渡の空舞う

本間 日綺

トキのいる 佐渡の空を いつまでも

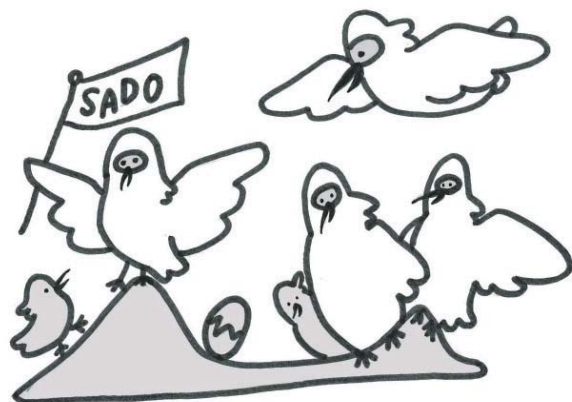
風間 一郎

トキよ飛べ 日本の大空 高く飛べ

仲村 遼祐

トキが飛ぶ 佐渡の大空 きれいだな

川口 仁



大切に 守っていこう トキの森

小濱 尊士

はばたくよ 未来の空でも 佐渡のトキ

野本 息吹

佐渡のトキ いつまでたっても 変わらない

いつになっても 見られるように 織田 大夢

トキがとぶ どうしてトキは うつくしい

土屋 信太朗

佐渡ヶ島 トキの楽園 ただ一つ

小林 勇仁

夢を見る トキが世界を 飛ぶ夢を

古玉 俊平

トキのため みんなで協力しましょうよ

藤井 慎也

トキたちが 大きく羽ばたく 佐渡の空

三輪 厚好

トキよトキ どうしてそんなに 美しい

小島 拓真

トキのため 守っていこう 佐渡の森

白井 愛良

佐渡こそが 稲穂も光る トキの里

野口 薫

佐渡の自然 みんなで守ろう トキの森

梅本 飛優斗

トキ色の 笑顔があふれる 佐渡の米

鈴木 雄介

ああトキよ テストの点と ふえてくれ

伊藤 光



生物多様性ポイント④

「トキの野生復帰」

昭和56年、野生トキ5羽の一斉捕獲から27年が経った平成20年9月、佐渡の空にトキが再び飛び立ちました。

平成24年には放鳥したトキからヒナが誕生、平成28年には野生生まれ同士のペアから純野生のヒナが誕生しました。

毎年2回の放鳥と、野生下で生まれたトキを合わせ、平成29年2月現在、野生下には約200羽のトキが生息しています。



「幸せの黄色いカエル」

齋藤 真一郎（佐渡市）

黄金の島に似合うサドガエル、ささやくような鳴き声で幸せをもたらす、腹黄色ガエル。腹黒い人でもこのカエルを捕まえるとちよつといい人になったり、お金に縁のない人は、お金が回るようになったり？

6月に今年も大学生たちが研修にやって来た。最近の学生は、生きもの・虫嫌いが多く、触れることも見ることも嫌がる。

佐渡は生きもの天国の島、生きもの嫌いを治すには最高の場所であるので、仕事をしながら生きものとふれあいを仕掛けましょう！

今年はカエルが苦手な学生さん、トキ認証米田んぼの江堀りをしながら、カエルが出るたび、悲鳴をあげ、逃げま

くる。特に緑のカエルがダメらしい。

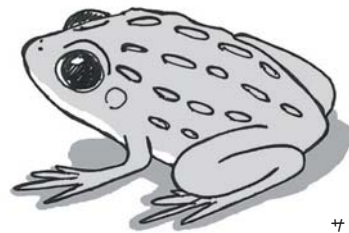
そこでサドガエルを探す提案。彼女いない歴？年の彼らに、サドカエルを捕まえると、彼女も捕まるぞと言ったら真剣に探し始めました。

へっぴり腰で田んぼを歩く姿は微笑ましい。しばらくすると江の中で交尾中のサドガエルのカップルに出くわし、ゲロ！サドガエルのお告げか？

彼女ができ、幸せが待っているのか？邪魔された腹いせにしばらく彼女無しの生活が続くのか？サドガエルの御利益はいかに！

ともあれカエルを触れるようになったことは、生きものとながり、視野が広がったという幸せを得たので、佐渡に来た甲斐があったということです！(^-^)

幸せの島に暮らす、腹黄色カエル。幸せになりたい方、サドガエルに会いに御来島！



サドガエル：佐渡島在住

黄色いお腹を見たかっただけで探してみようよーっやー！

生物多様性ポイント⑤

「サドガエル」

佐渡島にしか生息していない固有種のカエルが発見され、平成24年に「サドガエル」と名付けられました。

ツチガエルと似ていますが、背中のツブツブがなだらかで、お腹が黄色いのが特徴。

また、ツチガエルより鳴き声が小さいことから、学名には「ささやく」という意味の名がつけられています。



生きもの調べで探してみるのじゃー！

ねえ トキって しってる？ 梅村 静代（愛知県名古屋市）

黄色のしつかりとした美しい本だ

この本を初めて手にした時わたしの心はひとつ飛びに少女時代に戻っていった

佐渡…この、やさしい人々がいつも住まう島

そして、海も山も人々も、どこまでも優しく正直で美しい藍色の日本海にぼっかり浮かぶ大好きな島

わたしはもう何十年も飽きることなく通っている

亀井勝一郎氏が妙宣寺からの国仲平野を『佐渡飛鳥』と絶賛し太宰治氏は太平洋戦争前におけさ丸で両津に着いている。

そんな文学的な情緒が今もしつかり残る歴史にも懂れたが一番の佐渡の魅力はそこに暮らす人々の人情であろう

誰もがわたしに いつも不思議そうに問いかける

『佐渡の、いったいどこがそんなにいいの？』と。

わたしは答えない

幾たびも佐渡に来ればあなた達もきつとりこになるからと。

そして、この島の幸せな子どもたちよ

トキを守りながら人間のからだにやさしいお米を作ってくれている島の人々に感謝しながら、心広く立派な大人になってください

【トキと暮らす島】で共に暮らし成長するあなた達が誇りをもってトキを始め生きものたちも安心して暮らせる社会を作ってください。



トキの絵本
「ねえ トキって しってる？」

生物多様性ポイント⑥

「ねえトキってしってる？」

トキの保護活動は、行政より早く、多くの佐渡の島民の方がボランティアで行ってききました。このような先人たちのトキ保護の想いを次の世代の子供たちに伝える為に、平成26年に佐渡市がこの絵本を発行しました。

トキの森公園（資料展示館）
やトキ交流会館で購入が可能です。
（1部500円）



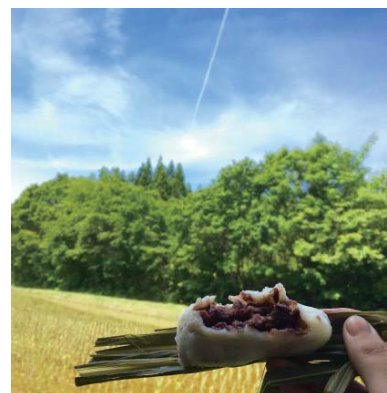
分かりやすくトキの事が描いてあるぞ！



「迫力満点鬼太鼓！」
矢部 拓巳



「無題」
矢野間 真



「初めて見た景色」
山岡 うらら



「無題」
山田 ありさ



「一旦作業やめ」
矢部 拓巳



「柿から見た景色」
矢部 拓巳



「無題」
矢野間 真



「水田作業」
森 彩奈



「あら嫌だ 朱鷺米ならぬカモメ米（爆）」
小濱 加一郎（佐渡市）



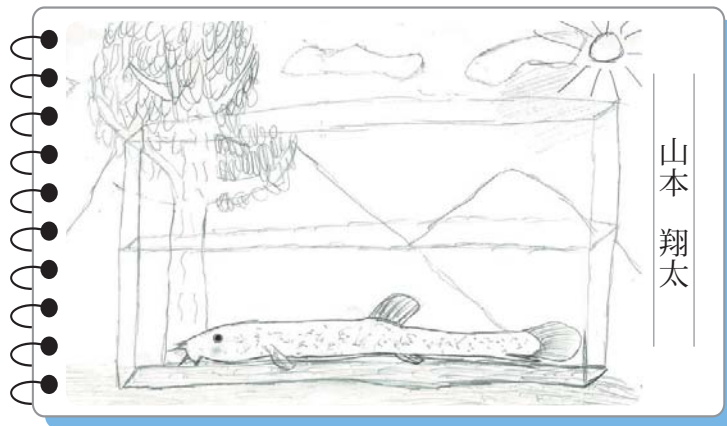
「夫婦佐渡ガエル」
望月 俊哉



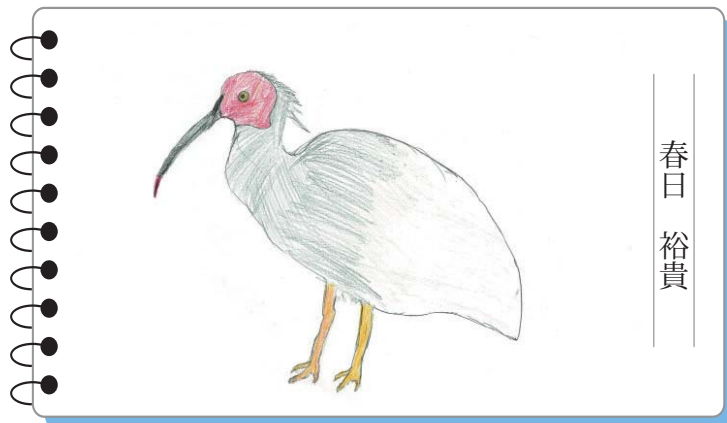
→「田んぼのありがたみ」
八ツ田 涼



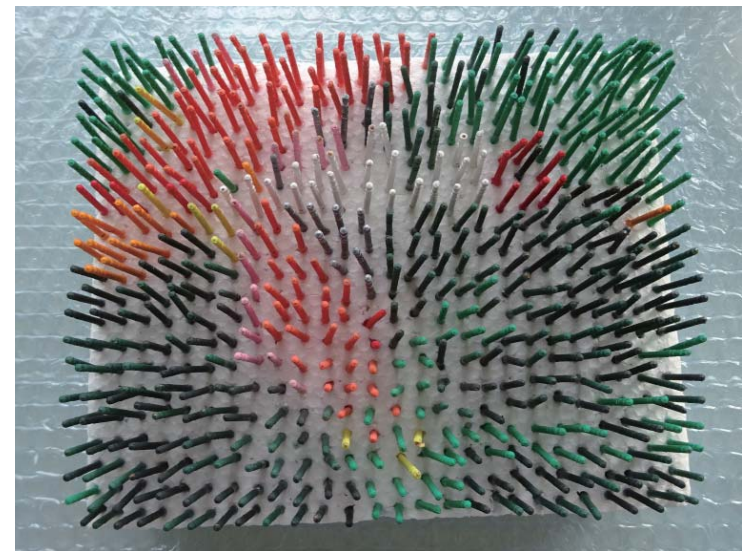
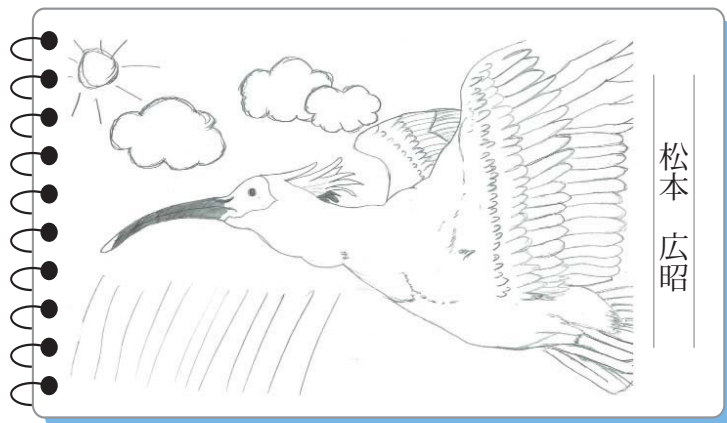
→「尊きいのち」
山崎 裕也



イラスト部門 応募作品

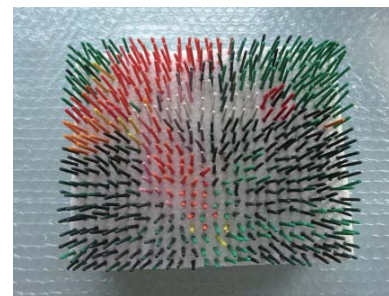


佐渡中等教育学校



自由形式 応募作品

つまようじアート（立体）トキ
ペンネーム ゆっきー（千葉県・小学4年）

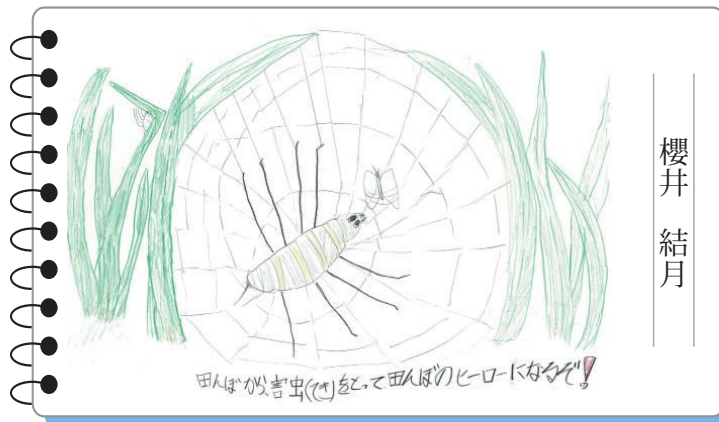


離れて見ると、右側を頭にして飛んでいるトキが浮かび上がります。

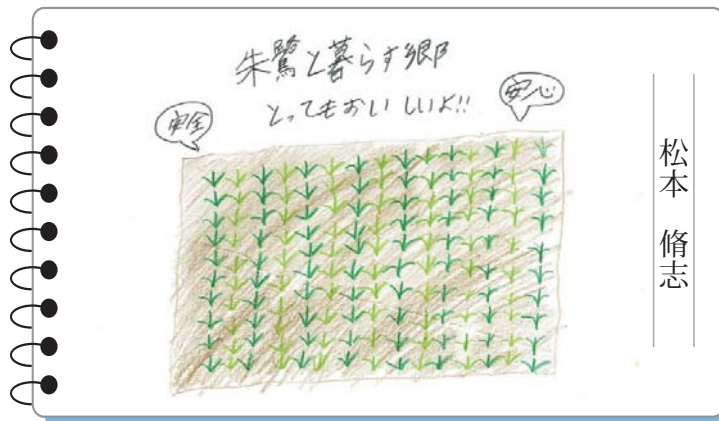


いろいろな色に塗られたつまようじで、トキを表現しています。

櫻井 結月



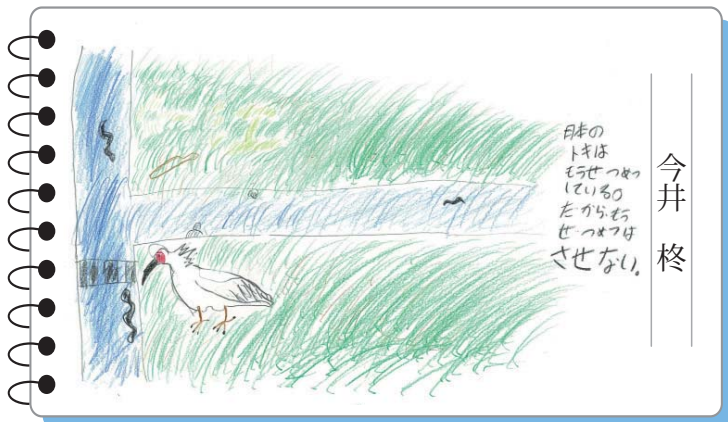
松本 脩志



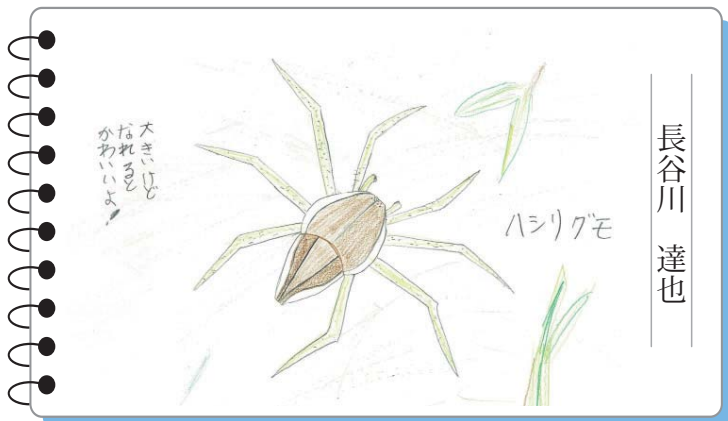
石井 一宙



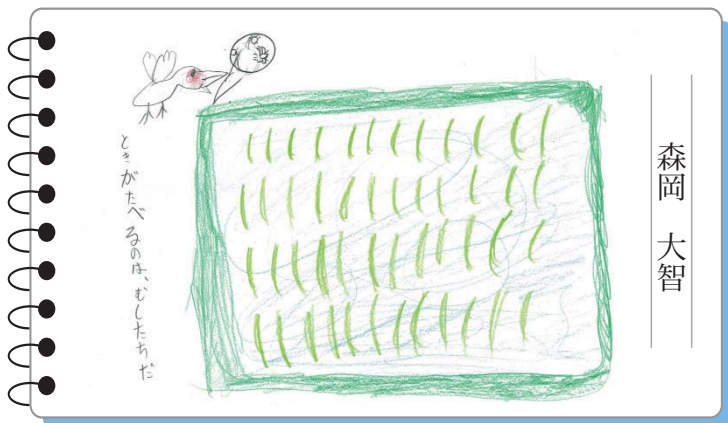
今井 柊



長谷川 達也



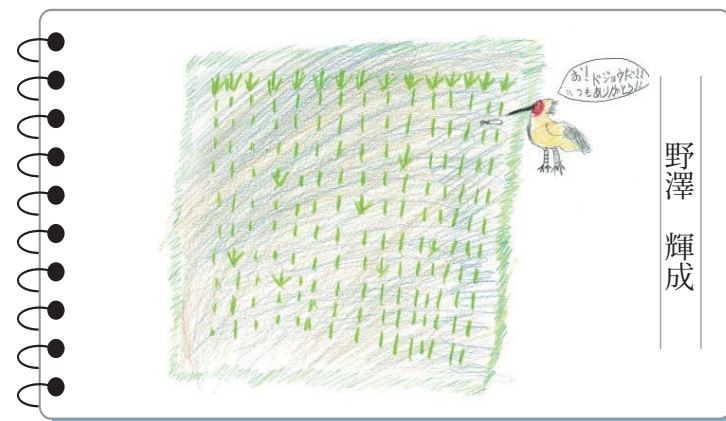
森岡 大智



菅原 翼阜



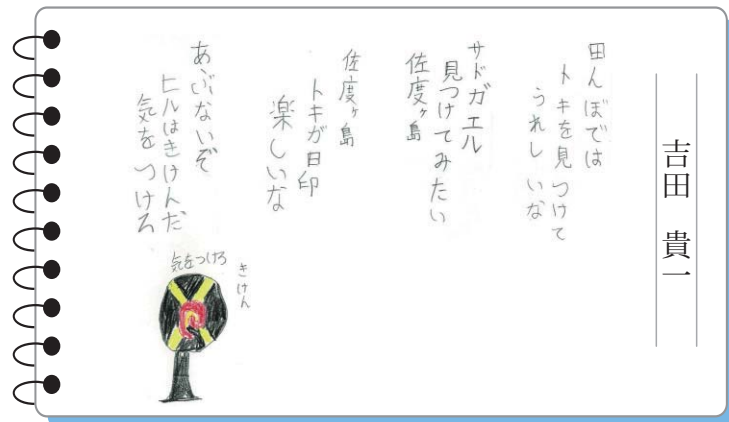
野澤 輝成



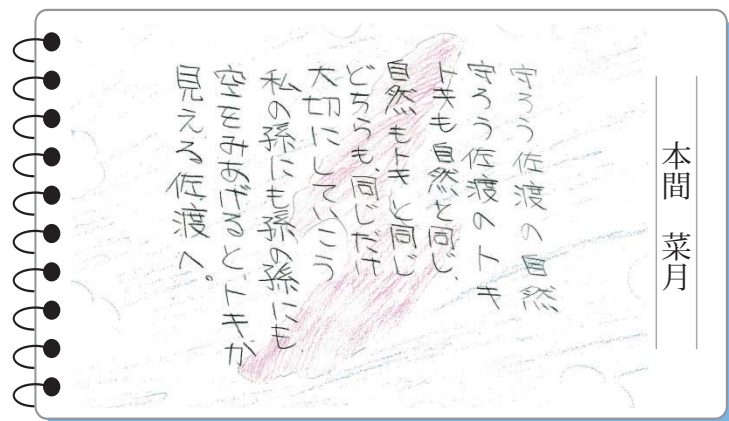
川瀬 仁香



吉田 貴一



本間 菜月



2016年7月14日
附属新潟小学校 佐渡自然教室
田んぼの草取りと生きものの調べ



岩崎 麗



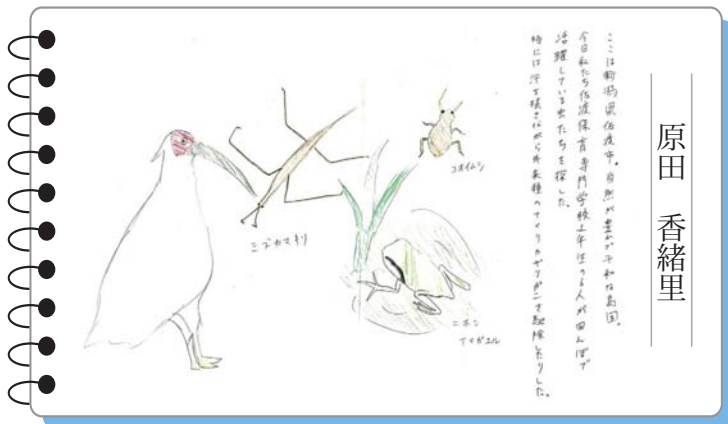
丸山 美咲



大蔵 美南海



原田 香緒里



佐渡島をフィールドに体験学習



大学生によるトキのエサ場となる田んぼの江の補修ボランティア



田んぼやその周辺に住む生きものを調べる環境学習



佐渡島をフィールドとした、大学生の研究や実習、ボランティア活動、また修学旅行生や島内学生向けの体験学習、環境学習も積極的に行われています。

佐渡生きものの語り研究所では、佐渡の田んぼを中心とした環境学習・ボランティア等の受け入れを行っています。詳しくは巻末のお問合せ先までご連絡下さい。



初めてのお客さんに少し緊張気味の Kids たち (笑)



大きな声で、自分たちが育てたお米をPR!



好評につき完売! ありがとうございました!

地産地消フェスタ米売り体験

Kids たちの米づくりの活動は、お米を育てるだけでなく、販売まで行います。1年間大事に育て収穫したお米を、佐渡市地産地消フェスタで販売体験を行いました。

どのように宣伝したら来場したお客さんに買ってもらえるかなど自分たちで考え、米づくり活動を掲載した「田んぼ日記」の配布や看板の制作、お店の飾りつけまで Kids たち自ら考えて行いました。

地産地消フェスタで販売した Kids 米の米袋には、Kids たちが描いた手書きのイラストラベルが貼られています。



「佐渡 Kids 生きもの調査隊」は、佐渡島内の小学3年生から中学生を対象に、米づくりから米売りまでの一連を体験し、お米のことや生きもののこと、そして田んぼと生きものの繋がりについて学んでいます。

また、他地域の子供たちとの交流を通して、その土地の文化や田んぼ、生きものについて学び、地元である佐渡のことを考える活動を行っています。



Facebook で活動公開中!



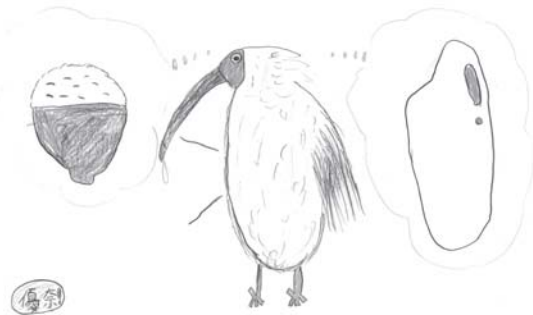
佐渡 Kids 生きもの調査隊

検索





宮川 優奈



宮川 優奈



宇佐見 真央

無農薬・無肥料
自然栽培で育てています。

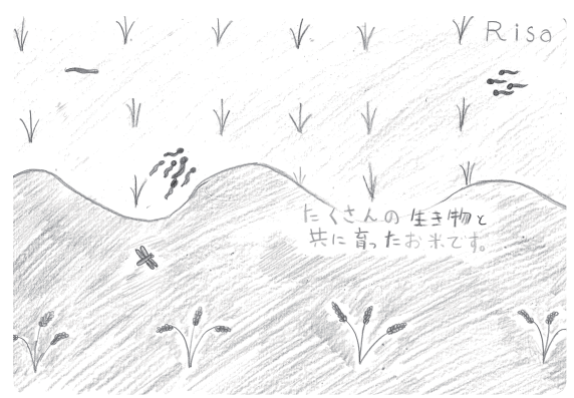
安心・安全です。どうぞ食べて
ください。



須田 優心

おいしい
お米です!
ぜひ食べて
Risa ください!

三浦 理紗



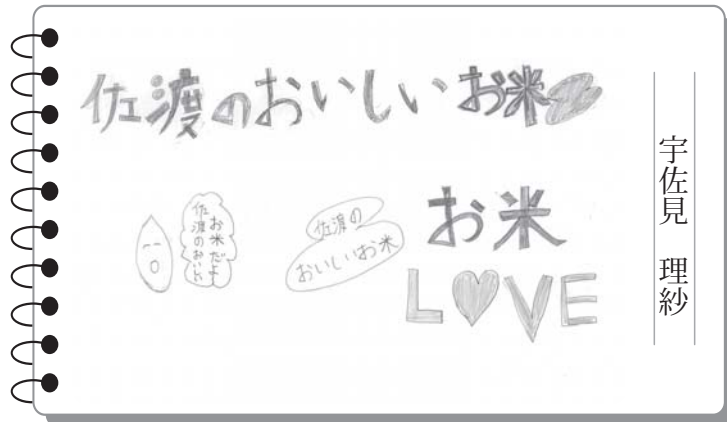
三浦 理紗



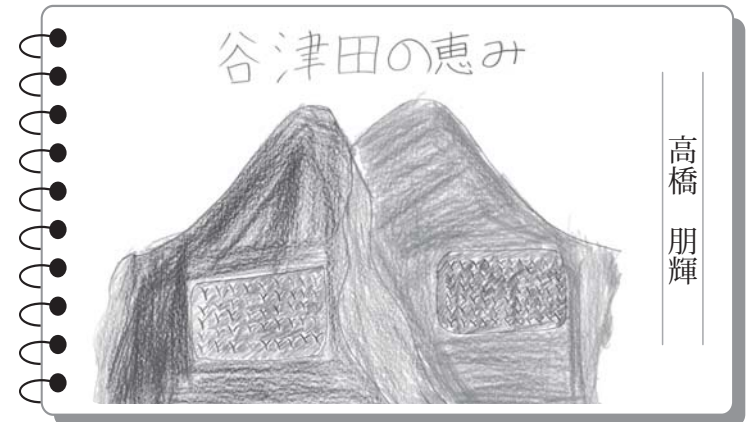
小田 真軌



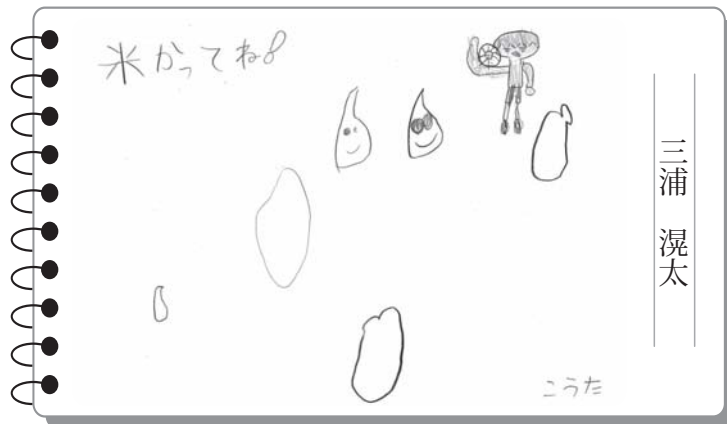
佐藤 林愛瑠



宇佐見 理紗



高橋 朋輝



三浦 滉太

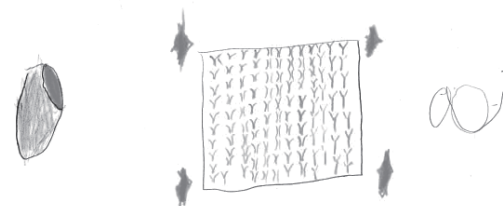


齋藤 啓太



日比谷 建瑠

お米買っ てね



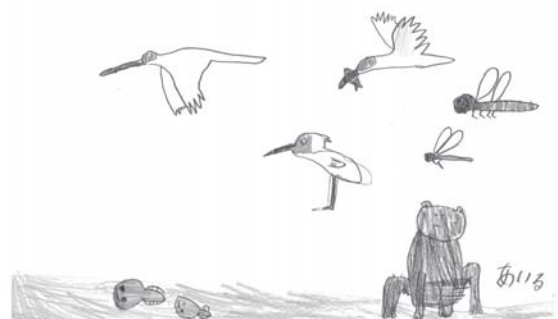
伊藤 蒼



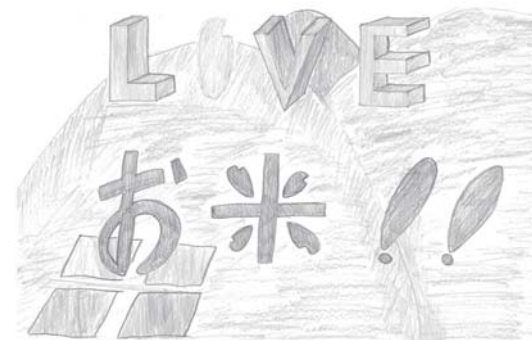
佐藤 あいる

新米

小林 幹



佐藤 あいる



宇佐見 優奈

守る

「生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する」

私たちは生活の安全性や効率化のもとに様々な開発を進めてきました。結果、佐渡各地の自然環境に依存し生息していた在来の生物は住みかを失い、その個体数は減少してきています。今後、生物との共生を図る整備を進めなくてはなりません。

また、佐渡には本来生息・生育していなかった生物が持ち込まれ、佐渡固有の生物相と生態系に対する大きな脅威となっています。深刻化する前に、適切な対策を実施し、生物多様性の損失を食い止めなければいけません。

佐渡市の取組み

- ・在来種の保全・保護
- ・生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化
- ・多様な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

使う

「生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する」

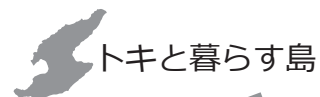
佐渡はG I H A S（世界農業遺産）に認定されました。佐渡の農村文化や伝統芸能、里地・里山の美しい自然景観を次世代へ継承していくためには、持続発展的な農業農村の活性化が最重要課題となっています。

佐渡で育まれる生物多様性の恵みを持続的に享受しながら、活力ある経済・社会活動を実施し、若者が定住・定着できる社会づくりを行っていくことが現代の私たちに求められています。

佐渡市の取組み

- ・環境と経済が好循環する産業の育成
- ・環境負荷の少ない循環型社会づくりの促進

（佐渡市「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」より 詳しい内容は、佐渡市ホームページまたは冊子をご覧ください。
トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略 <https://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/biodiversity12/pdf.shtml>



生物多様性佐渡戦略

【基本理念】

生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

佐渡で暮らす私たちと多くの生きものが共生する環境は、長きに渡り培われてきた豊かな自然、歴史、文化について市民一人ひとりが「知る・守る・使う」ことによって、保全・再生されるものです。

この「知る・守る・使う」に対応した3つの基本目標を設定し、積極的に推進する施策を定めています。

知る

「佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する」

私たちの健康で豊かな生活は、自然から多くの恩恵を受けている事を自覚することが大切です。将来に渡って佐渡の生物多様性豊かな環境を保全・再生していくためには、まず、私たち一人ひとりが佐渡の環境について十分理解し、後生に渡って継承していく必要があります。

佐渡市の取組み

- ・生物多様性に対する市民理解の促進
- ・組織・団体間のネットワークの構築
- ・企業CSR活動の参画促進
- ・大学等との連携による人材育成の促進



後記

ノミネート選考委員（順序不同・敬称略）

大石 惣一郎	佐渡棚田協議会 会長	
平野 徹	新潟県教育庁 下越教育事務所	指導主事
広野 行男	環境省 佐渡自然保護官事務所	首席保護官
本間 皓	J A 羽茂 組合長	
近藤 千扇	佐渡市地域おこし協力隊	
本多 治雄	朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会	会長
大井 克巳	(一社) 佐渡生きもの語り研究所	理事

人気投票：J Aふれあいアッセまつり来場者様（2016年11月3日）

発行日 2017年3月 発行
 発行 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会
 編集 一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所
 イラスト みらい (表紙・挿絵) / kanako (ドクターイキモン)
 写真 佐渡市「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」より
 佐渡市民・佐渡生きもの語り研究所 / 印刷・製本 新穂印刷
 お問合せ先 〒952-0103 新潟県佐渡市新穂湯上 1101-1 トキ交流会館2F
 TEL/FAX 0259-22-2658 <http://sado-ikimonoken.jp/>
 E-mail : ikimon@sado-ikimonoken.jp